

【福祉住環境コーディネーターはどんな資格？】



福祉住環境コーディネーターは、2000年4月介護保険の導入で、手すりの設置など住環境整備のための改築の一部が保険で行えることになり、住宅改修のニーズが高まり、その中でケアマネジャーや工務店などと連携して、高齢者や障害者に住みやすい住環境を提案するために、東京商工会議所が1999年5月にスタートさせた検定資格です。在宅で暮らす高齢者、障害者にとって安全で快適な住環境整備を提案するアドバイザーです。

ソーシャルワーカーやケアマネジャー、建築関係者などの各種の専門家と連携をとりながらクライアントに適切な住宅改修プランを作成、福祉用具や諸施策情報などについてのアドバイス。

福祉住環境コーディネーターの主な仕事は、バリアフリー住宅への新築、建て替え、リフォームにおけるコーディネート及び福祉用具、介護用品から家具までの選択と利用法のアドバイス並びに福祉施策、福祉・保健サービスなどの情報提供。

2001年1月には厚生労働省から、介護保険で住宅改修費の助成を受ける際の原因書作成を、ケアマネジャー、作業療法士とともに、2級取得の福祉住環境コーディネーターにも認めるという通達が出でいます。

この資格は、1～3級がありますが受験資格に制限がなく、幅広い分野の人たちが受験しているのがこの資格の特徴。

3級は入門編、福祉と住環境の関連分野の基礎的な知識についての理解程度。

2級は、より幅広い知識、理解を持ち、各専門職と連携して具体的な解決策を提案できる能力を基本。

(2003年度からは、1級検定実施)

「各級の基準」

—3級—

福祉と住環境の関連分野の基礎的な知識についての理解度を確認いたします。

- ・ 超高齢社会が到来する中で、生活者として知っておくべき福祉一般の基本的知識を理解している。
- ・ 子供から高齢者にわたる全世代を対象に、生活者の視点から、地域コミュニティ・まちづくりを含んだ「福祉住環境整備の基礎知識」を理解している。

—2級—

3級レベルの知識に加え、福祉と住環境等の知識を実務に活かすために、幅広く確実な知識を身につけます。また、各専門職と連携して具体的な解決策を提案できる能力を求めます。

- ・介護、医療、福祉、建築、福祉用具に関する専門の知識を身につけ、それらを適用できるまで深く理解している。
- ・福祉住環境に関する様々な問題点を抽出でき、クライアントのニーズ、経済的状況、福祉制度、建築による対応、福祉用具による対応等を総合的に勘案し、各専門職と連携し最適な解決策を提案できる知識・技能を有している。

—1級—

3級・2級で得た知識をもとに、新築や住宅改修の具体的なプランニングができ、さらに安全で快適なまちづくりへの参画など、幅広い活動ができる能力を求めます。

- ・個々の住まいにとどまらず、買い物や散歩などに出かける日常生活圏全般に、また住宅として位置付けるべき社会福祉施設（ケアハウスやグループホームなどの住関連施設）までも視野に入れた住環境整備に係わる知識・技能を有している。
- ・地域社会におけるコーディネーターとしての能力、さらに福祉のまちづくりなどにも積極的に助言できるような技量と調整力を有している。

(2009年第22回)

	受験者数	実受験者数	合格者数	合格率
3級	1 2 1 1 3	1 0 9 8 8	7 5 2 7	6 8 . 5
2級	1 6 7 8 6	1 5 1 1 9	6 5 4 7	4 3 . 3

(2009年第23回)

3級	1 1 4 8 8	1 0 3 0 2	6 4 2 0	6 2 . 3
2級	2 0 0 8 7	1 8 0 2 1	9 2 9 2	5 2 . 6